

ほほえみ 第139号



新型コロナ肺炎も何となく下火といった状況で、入国制限も少し緩和されました。ロシアのウクライナ侵攻も三か月が経過しています。世の中の状況は改善していませんが、新型コロナにせよウクライナ侵攻にせよ、日常化したように感じます。夏ごろには、もう少し状況が良くなっていることを願っています。

雨夜譚

“あまよがり”と読むようです。渋沢栄一の自伝ですが、本来は書かれたものではなく、講演を筆記させたもののようです。2024年にお札(日本銀行券)の顔が変わる予定で、渋沢栄一が一万円札の顔になるとのことです。昨年、NHKの大河ドラマ、『青天を衝け』が放送されていたとのことですが、個人的には、一話も見なかったのに、逆に、読んで新鮮に感じたのかもしれませんが。渋沢が書いたものでは、『論語と算盤』が有名ですが、面白さで言うと雨夜譚の方が断然上です。

大河ドラマというと、薩長方の視線のものがほとんどでした。渋沢栄一は、強いて言えば幕府方ですが、元々、討幕を目指しており、ひょんなことから、徳川慶喜の家臣となってしまったという変わった経歴の持ち主です。また、武家ではなく農民でした。農民といっても、財力もあり藍の商売もするような家ですし、14歳で父の代わりに藍の買い付けをし、堂々と藍を見定めて値付けしたようです。当時としては、自由に育てられた人ですが、今の教育の自由放任とは違います。四書五経などを型どおりに習わなかったというだけで、相当勉強した人物ですね。彼自身は謙遜していますが、後に明治政府に出した建議書などは立派な漢文です。

俗に宮仕えと言いますが、彼の宮仕えは伸び伸びしています。一橋家に仕えたときも、一橋家に軍を設けることを進言したり、徳川昭武に随行してフランスに渡った時も、その間に江戸幕府が倒壊するという大変動の中で、徳川昭武一行の進退全般を臨機応変に取り仕切ってます。明治政府の大蔵省時代には、改革を断行し、(相手が)駄目だと思ったら、争いもせず大蔵省の高官を辞してしまうという、形式なんて糞くらえという気概がある人物です。

多分、武家に生まれなかったことが幸いしているのでしょう。幕末に活躍した人物は武家出身なので、お家という柵に縛られることが多かったでしょう。

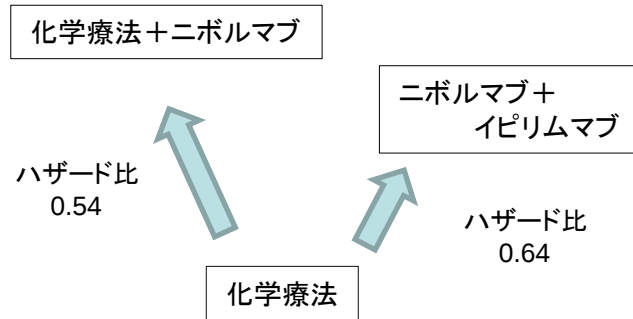
しかし、渋沢栄一は、討幕を企図→一橋家に仕官→慶喜将軍職に伴い幕臣となる→明治政府に出仕→在野に下るというあり得ない経歴です。普通は、政治的に反対側に移ると冷遇されるのが世の常ですが、相手方に乞われて出仕し昇進するという、類まれな人物ですね。彼が注目を集めるのは、今の日本に創業する気概が失われつつあることの裏返しでなければ良いのですが。



食道癌に対する、ニボルマブ・イピリムマブ療法

食道癌に関しては、既に化学療法＋ニボルマブという組み合わせの治療が承認されていますが、今回、ニボルマブ＋イピリムマブ療法という、免疫チェックポイント阻害剤同士の組み合わせも承認されました。

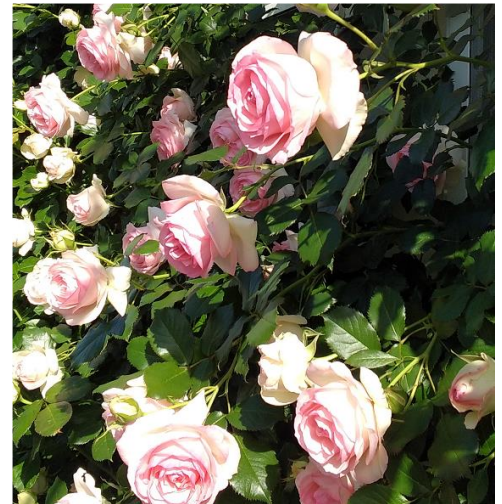
有効性に関しては、化学療法＋ニボルマブの組み合わせの方が、免疫チェックポイント阻害剤併用より上回るようですが、プラチナ製剤が使えないような場合に、選択できる治療が増えるという意義があります。ただし、副作用が結構厄介な治療といえるかもしれません。



バラの季節

6月といえば、バラの季節です。例年は品種によって開花の時期がずれることが多いのですが、今年は開花の時期が比較的揃いそうです。先日から、壁面のピエール・ド・ロンサーフが咲き始めています。大輪の華やかなバラで、朝方には青リンゴのような香りが漂います。

このバラは、枝ごとに色の濃さが微妙に変わります。ピンクの強いものから、比較的白いものもあり、それぞれニュアンスの差がありますが、特に開花する途中の段階が、花びらの多さも相まって素晴らしいバラといえます。さすが、世界バラ会議で殿堂入りの品種といえます。



ピエール・ド・ロンサーフ

MEMO

6月のがん化学療法科の予定

6月24日 休診します

診療応援の先生方

月曜日	齋藤里佳先生
第1, 3, 5火曜日	佐々木啓寿先生
第2, 4火曜日	工藤千枝子先生
第1, 3, 5木曜日	笠原佑記先生
第2, 4木曜日	今井源先生



そろそろ、メロンの季節